Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●佐藤翔馬騎手がJRA初勝利をあげる

９月10日(日)の４回中山２日・第１レースではホーリーブライトが１着となり、同馬に騎乗した佐藤翔馬騎手(美浦・小桧山悟厩舎)は、ＪＲＡ初勝利(122戦目)をあげました。

●武井亮調教師がJRA通算200勝を達成

９月10日(日)の４回阪神２日・第９レースとして行われた能勢特別ではアレグロモデラートが１着となり、同馬を管理する武井亮調教師(美浦)は、現役105人目となるＪＲＡ通算200勝(延べ2429頭目)を達成しました。

●サマーシリーズ2023の各チャンピオンが決定

９月10日(日)に行われた産経賞セントウルＳ(ＧⅡ)および京成杯オータムハンデキャップ(ＧⅢ)をもって、本年度のサマースプリントシリーズとサマーマイルシリーズが終了しました。サマースプリントシリーズではジャスパークローネ(牡４歳／栗東・森秀行厩舎)が第２戦・ＣＢＣ賞(ＧⅢ)と第４戦・テレビ西日本賞北九州記念(ＧⅢ)を連勝するなどして計21ポイント、サマーマイルシリーズでは第１戦・米子Ｓ(Ｌ)を勝利したほか全４戦に出走したメイショウシンタケ(牡５歳／栗東・千田輝彦厩舎)が計14ポイントを獲得し、それぞれシリーズチャンピオンに輝きました。またサマージョッキーズシリーズでは京成杯オータムハンデキャップなどを勝った松山弘平騎手(栗東・フリー)が計31ポイントでチャンピオンの称号を手にしています。

●カワカミプリンセスが死亡

９月11日(月)、カワカミプリンセス(牝20歳)が死亡しました。同馬は2006年の優駿牝馬(オークス／ＧⅠ)と秋華賞(ＧⅠ)を制して同年度のＪＲＡ賞最優秀３歳牝馬および最優秀父内国産馬を受賞。ＪＲＡ通算17戦５勝の成績を残して北海道新ひだか町の三石川上牧場で繁殖入りし、繁殖牝馬から引退した後も同牧場に繋養されていました。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田の結果

2023ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田は９月７日に行われ、第１戦は山本屋太三騎手(兵庫)、第２戦は兼子千央騎手(金沢)が制しています。

●兵庫若駒賞はマミエミモモタロー【各地の主要２歳重賞】

兵庫若駒賞(８月31日、園田、1400㍍)は、先手を取った単勝1.5倍で断然人気のマミエミモモタロー(牡、父ニシケンモノノフ)が後続を７馬身引き離し、デビュー以来無傷の３連勝。石川テレビ杯(８月29日、金沢、1400㍍)は、逃げた２番人気のダヴァンティ(牝、父ダノンレジェンド)が６馬身差の独走となり、新馬戦に続く連勝を果たしました。

●ショウガタップリが西日本ダービー圧勝【各地の主要３歳重賞】

西日本ダービー(９月10日、佐賀、2000㍍)は、４番手前後から２周目３コーナー過ぎに抜け出した単勝1.3倍で圧倒的人気の金沢からの遠征馬ショウガタップリ(牝、父エスポワールシチー)が６馬身差で圧勝、通算成績を13戦12勝としました。園田オータムトロフィー(９月７日、園田、1700㍍)は、２番手から２周目４コーナー手前で逃げ馬を捉えた兵庫ダービー馬スマイルミーシャ(牝、父カレンブラックヒル)が後続に５馬身差を付け、単勝1.1倍の支持に応えています。

●ドライスタウトらが出走、９月20日のオーバルスプリント(浦和)

オーバルスプリント(ＪｐｎⅢ、９月20日、浦和、1400㍍)は、ドライスタウトが最有力、以下ラプタス、スマイルウィ(船橋)、オーロラテソーロ、テイエムサウスダンまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１愛チャンピオンＳ～オーギュストロダンが巻き返す

現地９月９日にアイルランドのレパーズタウン競馬場で行われたＧ１愛チャンピオンＳ(３歳上、芝2000㍍)は、R.ムーア騎手を背に３番手でレースを進めたオーギュストロダン(牡３歳)が直線半ばで先頭に立って優勝。半馬身差の２着に連覇を狙ったルクセンブルクが入り、これでこのレース５連覇で12勝目となったA.オブライエン厩舎が１、２着を占めました。オーギュストロダンは父がディープインパクト、母がロッキンジＳなどＧ１・３勝のロードデンドロンというアイルランド産馬でＧ１は４勝目。今年はＧ１英2000ギニー12着の後、Ｇ１英ダービー(芝2410㍍)とＧ１愛ダービー(芝2400㍍)を連勝。前走のＧ１“キングジョージ”は最下位10着でしたが、地元の大一番で巻き返しました。

●韓国国際競走～日本調教馬が２勝をあげる

９月10日に韓国のソウル競馬場で行われた韓国国際競走で日本調教馬が２勝の活躍を見せました。Ｇ３コリアスプリント(３歳上、ダート1200㍍)を川田将雅騎手が手綱を取ったリメイク(牡４歳、父ラニ、栗東・新谷功一厩舎)が４馬身差、そしてコースレコード(１分10秒０)で制すと、続くＧ３コリアカップ(ダート1800㍍)も同じ新谷功一厩舎の所属馬で川田騎手が騎乗したクラウンプライド(牡４歳、父リーチザクラウン)が10馬身差で圧勝しました。